

Emergency Watch

NO. 37



神戸こども初期急病センター



2013年12月受診者数：2829人

訴え

- | | |
|-------|-----------------|
| 1. 発熱 | : 1517人 (1123人) |
| 2. 咳 | : 1079人 (256人) |
| 3. 鼻汁 | : 973人 (38人) |
| 4. 嘔吐 | : 818人 (493人) |
| 5. 腹痛 | : 423人 (157人) |

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 急性上気道炎・咽頭炎 | : 906人 |
| 2. 感染性胃腸炎 | : 812人 |
| 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | : 168人 |
| 4. 気管支炎・肺炎 | : 164人 |
| 5. インフルエンザ | : 110人 |

☆☆今月のワンポイント☆☆

神戸こども初期急病センターは、平成24年12月より開設4年目に入りました。神戸ではこの12月とても寒い日が多く冬が本格化してまいりました。12月の受診患者さんの数は11月に比べ835人ほど増加し2829人でした。インフルエンザの流行が少し遅かった去年12月の受診者数が2880人でしたので同傾向であるといえそうです。疾患別頻度としては、上位4つは先月までと変わりませんが5位にインフルエンザが入りました。インフルエンザ迅速検査は369人に施行され、A陽性43人、B陽性13人でありまだまだ数が少なく今後の流行が懸念されます。EW35号を参考に予防に努めてください。

さて今月は依然受診患者数の多い感染性胃腸炎についてお話しします。感染性腸炎はノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス性腸炎、病原性大腸菌やサルモネラ菌などの細菌性腸炎があります。こども初期急病センターを受診されるほとんどの患者さんは前者つまりウイルス性が多いため以下これに絞って説明していきます。

ウイルス性胃腸炎の症状は多くの場合は通常2週間以内に自然治癒し、嘔吐のピークは長くて2~3日(通常は1日)、下痢のピークは長くて1~2週間(通常は4~5日)です。ウイルスそのものより胃腸炎症状に伴う嘔吐・下痢による脱水が怖く、中でも体の小さい新生児や乳児は重症化する場合があります。脱水症状の目安は「泣いても涙があまりでない」「よだれが少ない」「排尿が少ない」などです。

嘔吐が何度も続いていて水分摂取が難しい場合は、おなかを休めるために飲んだり食べたりすることを数時間やめてみたり、手持ちがあれば吐き気止めの座薬を試してみたりするのが良いです。また嘔吐が少し落ち着いても水分摂取をする際には、スプーン一杯などの少量から実施することが有効です。それでも嘔吐が頻回であったり脱水症状が著明な場合は医療機関への受診が必要です。

ウイルス性胃腸炎の場合は特効薬なく自分の力でウイルスを排除するしかありません。感染力が強いため予防法は接触しないことに尽きますが、患者さんが家族内にいるとそれも限界があります。やはり基本に立ち返って手洗いうがい大切です。

感染性胃腸炎では、嘔吐・下痢のピークを脱水にならないようにどう乗り切るのがポイントで、緊急の状況でなければ安易に外出せず、時に自宅で対処することも大切といえます。